



8月1日、玖波公民館で行われた「紙ヒコーキ大会」に、23人の子どもたちが参加しました。日本紙飛行機協会インストラクターの中野侃さんの指導で作った、ジェット機型の紙飛行機で飛距離を競います。紙飛行機に輪ゴムをひっかけ、矢を射るようにして遠くに飛ばします。子どもたちからは「思った以上に飛んだ」「まっすぐ飛ばずに曲がる理由が分からず悔しい」などの声も。優勝者は最長飛距離25mを記録しました。



3



1



4

8/6
FRI

3大竹高校2年の藤川琴美さん(左)と山中詩織さん(右)が司会進行を務めました。4小・中・高校生代表が「叫魂」像に折り鶴を献納。



2

1 8時15分。黙とうが捧げられました。2伊舎堂翔くん(大竹高)と登田唯知花さん(玖波中)の「平和への誓い」



5



3



1

1イラストを添えて。誰に出すのかな。2僕らは白バイポリスマン。



2



6

5KUBA男パン職人が、ベーコンエビやBLTサンドなど6種類のパン作りに腕を振ります。6手作りパンは、おいしいな。



4

3自動車のドアを解体、組み立て。4太陽光で走るソーラートレイン完成。



8月3日、栄公民館の「ペーパーバッグづくり教室」に小学1～6年生が参加。森本由紀子さんの指導で、バッグとごみ箱を作りました。英字新聞を使って作ったバッグは、おしゃれいっぱい。「レジ袋が有料になりました。古新聞やチラシを再利用することで、ごみを減らそうと思ってほしい。帰ってから、どうやって折ったかももう一度確かめてみて」と森本さん。日頃から折り紙に親しんでいる子どもたちは、作り方の飲み込みが早いようです。

総合市民会館
76年目の原爆の日を迎え、「大竹ヒロシマの日」として、「原爆死没者追悼・平和祈念式典」が挙行されました。昨年に続き、新型コロナウイルス感染症防止のため、時間短縮、規模を縮小しての開催でした。市被爆者協議会の中原悦司会長の式辞の後、8時15分のサイレンが響き渡り、会場は厳粛な空気に包まれました。今年も、大竹小、玖波中、大竹高校の代表3人が出席。「平和への誓い」と「折り鶴献納」の役割を担いました。「平和への誓い」では、大竹小6年の正木優那さんが「私たちにできることは過去を知り、核兵器や戦争の恐ろしさを想像し伝えていくこと」と平和な世界の実現のために自分たちのすべきことを訴えました。式典は、遺族らの献花で締めくくられました。



6



5



8月11日、らんらんカレッジサマースクールで「ボルダリング教室」が開催され、10人の小学生が岩登りに挑戦しました。高さ4mの人工の壁面に取り付けられたホールドという石をつかんで、難易度によって色分けされたルートを一歩ずつ攻略するというもの。最初にコツを教えてもらった子どもたちは、自分の好きな壁面にチャレンジ！水島早彩さん(大竹小2)は「振りをつけて登っていくのが楽しかった」とうれしそうに話してくれました。



7

5遺族、一般参加者が祈りを捧げます。6菊の花が手向けられます。7子どもたちも平和な世の中を願います。

こども天国でお仕事体験

玖波公民館

夏休みの1日を楽しみながら学ぶ『こども天国インKUBA』が開催され、約230人の子どもたちが来場しました。警察署や郵便局、地元企業などが、各業種の特徴を生かしたブースを設置。子どもたちは、貴重な職業体験をしました。

郵便局のコーナーで、平池良恵さん(大竹小5)は、大阪のおばあさんに、「コロナの影響で帰省できないけど、落ち着いたら会いに行きます」と手作りはがきにつづります。

柱や屋根などの建材で、広さ1坪の家の棟上げ体験は人気の的。協力して建材を運び、組み立てる作業を通して、建物の仕組みを知ることができたようです。吉川敦悠くん(大竹小6)は、「屋根を持ち上げるのが重くて難しかった」と言いながらも楽しげな表情。

そのほかにも、光で動くソーラートレインの組み立てや、お金の仕組みを知るオークション、バーチャルリアリティー映像の体験などで終日にぎわいました。

7/25
SUN



7

7「ちびっ子棟上げ体験。床にうまく柱がはまるかな。8電動ドライバーを使ってボルトを締めます。



8



10



9

9みんなで屋根材を持ち上げます。10見事完成。ここまで約45分。